

2023 年キリスト教一致祈祷式文



Do good; seek justice

(イザヤ1：17)

姉妹教会交流会礼拝

時： 2023年 2月26日(日) 14時

所： カトリック高幡教会(オンライン)

カトリック 高幡教会

日本ホーリネス教団 由木教会

日本基督教団 永山教会

目 次

2023 年の聖書テキスト…………… p 3

2023 年のテーマの解説…………… p 4

礼拝式文…………… p 10

司式者1 「高幡教会」 (ホルハ 神父)

司式者2 「由木教会」 (小枝功 牧師)

司式者3 「由木教会」 (小枝黎子 牧師)

司式者4 「永山教会」 (小手川到 牧師)

説教担当 「高幡教会」 (ホルハ 神父)
聖書 (イザヤ1・12 - 18)

総合司会 「高幡教会」 (鈴木英彦 信徒)

2023 年の聖書テキスト

イザヤ 1・12 - 18

こうしてわたしの顔を仰ぎ見に来るが
だれがお前たちにこれらのものを求めたか
わたしの庭を踏み荒らす者よ。
むなしい献げ物を再び持って来るな。
香の煙はわたしの忌み嫌うもの。
新月祭、安息日、祝祭など 災いを伴う集いにわたしは耐ええない。
お前たちの新月祭や、定められた日の祭りを わたしは憎んでやまない。
それはわたしにとって、重荷でしかない。それを担うのに疲れ果てた。
お前たちが手を広げて祈っても、わたしは目を覆う。
どれほど祈りを繰り返しても、決して聞かない。
お前たちの血にまみれた手を 洗って、清くせよ。
悪い行いをわたしの目の前から取り除け。
悪を行うことをやめ 善を行うことを学び 裁きをどこまでも実行して
搾取する者を懲らし、孤児の権利を守り やもめの訴えを弁護せよ。

論じ合おうではないか、と主は言われる。
たとえ、お前たちの罪が緋のようでも
雪のように白くなることができる。
たとえ、紅のようであっても 羊の毛のようになることができる。

2023 年のテーマの解説

「善を行い、正義を追い求めなさい」（イザヤ1・17 参照）

イザヤは紀元前8 世紀のユダに住む、アモス、ミカ、ホセアと同時代の預言者でした。当時の「超大国」であったエジプトとアッシリアが弱体化したことによって、イスラエルとユダがともに経済的に大繁栄し、政治的にも安定していた時代が終わりを迎えようとしていました。しかし、いずれの王国でも不正義、不公正、不平等が横行している時代でもありました。この時代にはまた、ユダヤ教では、神殿における献げ物や犠牲の儀式と祭儀が非常によく整えられました。この宗教儀礼は祭司によって司式され、これらの祭司もまた富裕層や権力者の恩恵に浴していました。王宮と神殿が物理的に近接し、相互に連結し、権力と影響力はほとんど王と祭司に集中していました。彼らのうちには、この歴史の中で抑圧と不公正に耐えている民衆のために立ち上がる者はいませんでした。当時の世界観によれば（そしてそれは歴史上繰り返し立ち現れる世界観ですが）、富んでいる人、多くの献げ物をする人がよい人で、神から祝福されていると理解され、一方、貧しく献げ物ができない人は悪であり、神から呪われていると理解されていました。貧しい人は、経済的事情から神殿礼拝に参加することができないため、誹謗中傷されることもよくありました。

イザヤはこのような状況の中で、ユダの民の意識を現実を目覚めさせようと語りかけました。イザヤは、当時の人々の信仰心を称賛するのではなく、むしろそれは膿んだ傷であり、全能の神への冒瀆であると考えたのです。不正義と不平等が人々を分裂させ、不和をもたらしたのです。彼の預言は、政治的、社会的、宗教的構造を糾弾し、貧しい人を抑圧する一方で献げ物をささげることは偽善であると批判したのです。腐敗した指導者に激しく抗議し、正義と公正を神にのみ求め、恵まれない人々の側に立ち続けたのです。

ミネソタ教会協議会が任命した準備委員会は、キリスト教一致祈禱週間の中心となるテキストをイザヤ書1章から学びました。「善を行うことを学び、裁きをどこまでも実行して、搾取する者を懲らし、孤児の権利を守り、やもめの訴えを弁護せよ」（1・17）。

イザヤは、神がわたしたち全員に、つねに、そして人生のあらゆる領域で、正義と公正を要求しているのだと教えました。今日の世界は、イ

ザヤがその説教の中で直面した分裂という課題を多くの点で映し出しています。公正、正義、一致は、わたしたち一人ひとりに対する神の深い愛から生まれたものであり、神がどなたであるか、そして神はわたしたち人間が互いにどのような人間となることを期待しておられるのか、ということの核心なのです。「あらゆる国民、種族、民族、ことばの違う民」（黙示録7・9）から新しい人類を創造するという神の決意は、神が被造物につねに望んでおられた平和と一致へとわたしたちを招いているのです。

当時の信仰心に対する預言者のことばは辛辣です。「むなしい献げ物を再びもって来るな。香の煙はわたしの忌み嫌うもの。……お前たちが手を広げて祈っても、わたしは目を覆う」（13、15 節）。このような激しい非難を口にし、何が間違っているのかを診断した後、イザヤはこのような不公正に対する解決策を示し、神の民に次のように命じます。「洗って、清くせよ。悪い行いをわたしの目の前から取り除け。悪を行うことをやめよ」（16 節）。今日、ある特定のグループや階層が他よりも優遇されるときに、分断と抑圧が生じています。人種差別の罪は、ある「人種」を他の人種から区別したり、優遇したりする信念や慣習に現れています。人種的偏見が権力の不均衡を伴い、あるいはそれによって助長されるとき、その偏見は個人の関係性を超えて、社会構造へと移り、人種差別の制度的固定化を生みます。差別が存在することにより、教会を含む一部の人々に不当な利益をもたらし、単なる肌の色や「人種」の認識に基づく文化的連想によって、他の人々に負担をかけ、排除してきたのです。

聖書に登場する預言者たちから激しく非難された祭司たちのように、キリスト者の中にも偏見と抑圧を支持し、永続させ、分裂の助長に加担し、現在もそうし続けている人がいます。歴史が示すように、キリスト者は、神の似姿に造られた一人ひとりの人間の尊厳を認めるところか、奴隷制度、植民地化、隔離、アパルトヘイトなど、人種という偽りの理由で他者の尊厳を奪う罪の構造に、あまりにも頻繁に加担してきたのです。それと同時に教会の中でもキリスト者は、洗礼を受けたすべての人の尊厳を認めず、人種の違いを理由に、キリストにおける兄弟姉妹の尊厳を軽んじてきたのです。

マーティン・ルーサー・キング・ジュニア牧師は、印象深いことばを残しています。「日曜日の朝11時が、キリスト教国アメリカでもっとも分断された時間とはいわないまでも、甚しく分断された時間の一つであることこそ、わが国の悲劇の一つ、恥ずべき悲劇の一つです」。この発

言は、キリスト者の分断と人類全体の分断が互いに影響し合っていることを示しています。すべての分裂は罪に、つまり、神が被造物全体のために望んでおられる一致に反する態度や行為に根ざしているのです。悲劇的なことですが、人種差別は、キリスト者を相互に分裂させ、キリスト者が別々の時間に、別々の建物で礼拝するようにし、キリスト教共同体を分裂させる原因ともなった罪の一部なのです。

残念ながら、マーティン・ルーサー・キングが発言した時代から大きな変化は起きていません。日曜礼拝のもっとも一般的な時間帯である朝11時台は、キリスト者の一致を示すものではなく、むしろ、人種や社会的境界線に沿った分裂を示すことがしばしばです。イザヤが語ったように、信仰をもつ人々のこのような偽善は、神の前で罪となります。「あなたがたが祈りを多く献げても、聞くことはない。あなたがたの手は血にまみれている」（15節。聖書協会共同訳）

善を行うことを学べ

2023年キリスト教一致祈禱週間のために選ばれた聖句の中で預言者イザヤは、わたしたちがこうした病をどのように治すべきかを教えています。善を行うことを学ぶには、自己内省する決心が必要です。一致祈禱週間は、わたしたちの諸教会や諸教派間の分裂が、より広い人類家族の分裂と密接につながっていることをキリスト者が認識する絶好の機会です。わたしたちがキリスト教一致のためにともに祈ることで、何がわたしたちを結びつけているのかを考え、人類の中にある抑圧と分断に立ち向かうことに尽力できるのです。

預言者ミカは、何が善で、神がわたしたちに何を求めておられるかを指摘しています。「正義を行い、いつくしみを愛し、へりくだって神とともに歩むこと（ミカ6・8）です。公正に行動するということは、すべての人を尊重することです。正義は、「人種」、ジェンダー、宗教、社会経済的地位に基づく歴史的不利益に対処するために、真に公正な扱いを求めるのです。へりくだって神とともに歩むには、悔い改め、償い、そして最後に和解が必要です。すべての神の子らに対する公正さのために、わたしたちが責任を共有し、団結することを神は期待しておられます。キリスト者の一致は、被造物全体の和解した一致のしるしであり、前触れであるべきです。しかし、キリスト者の分裂はそのしるしの力を弱め、教会の使命である世界の傷へのいやしをもたらすどころか、分裂を加速することへと働いてしまいます。

正義を追い求めよ

イザヤは、ユダが正義を求めるよう助言します（17 節）。つまり、彼らの社会に不正義と抑圧が存在することを認めているのです。イザヤはユダの人々にこの現状を打破するよう懇願しています。正義を求めるには、他者に悪を加える人々との対峙が必要です。これは簡単ではなく、時には争いに発展することもあります。イエスは、抑圧に直面しても正義のために立ち上がることが、天のみ国につながると断言しています。「義のために迫害される人々は、幸いである、天の国はその人たちのものである」（マタイ5・10）。世界中の多くの地域にある諸教会は、自分たちがいかに社会的規範に迎合し、人種に関する不正義に沈黙し、あるいは積極的に加担してきたかを認めなければなりません。人種的偏見は、キリストのからだを引き裂いた、キリスト教分裂の原因の一つです。白人優越主義や「発見の教義」といった有害なイデオロギーは、とくに北米やヨーロッパの白人勢力によって植民地化された世界中の土地に、何世紀にもわたって多くの害を及ぼしてきました。キリスト者としてわたしたちは、抑圧のシステムを壊し、正義を擁護する意志をもたなければなりません。

ミネソタの執筆グループが「キリスト教一致祈禱週間」のためのテキストを準備した本年は、世界中がさまざまな人々の抑圧による悪と惨状に満ちていました。この苦しみは、多くの地域、とくに南半球で、新型コロナウイルス感染症の大流行によって大きく拡大し、多くの人にとって基本的な生活さえほとんど不可能となり、実効的な援助もほとんど得られなくなったのです。コヘレトの言葉の作者は、現在の経験を語っているように思えます。「わたしはあらためて、太陽のもとに行われる虐げのすべてを見た。見よ、虐げられる人の涙を。彼らを慰める者はない。見よ、虐げる者の手にある力を。彼らを慰める者はない」（コヘレト4・1）。

抑圧は全人類に害を及ぼします。正義なくして一致はありえません。キリスト教一致のために祈るとき、わたしたちは現在および何世代にもわたる抑圧を認め、これらの罪を悔い改めるために断固とした態度で臨まねばなりません。「お前たちの血にまみれた手」であるがゆえに、「洗って、清くせよ」（15、16 節）というイザヤ書の命令を自らのものとしうるのです。

虐げられる人を救え

聖書は、キリストとの関係性を、神のすべての人々、とくに「もっとも小さい者」（マタイ25・40）である人々に対する態度から切り離すことはできないと教えています。わたしたちが互いに献身するには、ヘブライ語で修復的正義を意味する「ミシュパット」に取り組み、声が聞き届けられない人々のために代弁し、不正義を生み出し維持する構造を解体し、だれもが公平な扱いと受け取るべき諸権利を促進し確保する、現在とは異なる構造の構築が必要です。この働きは、わたしたちの友人、家族、信徒を超えて、全人類に及ばなければなりません。キリスト者は、苦しんでいるすべての人の叫びを聞き、彼らの苦しみやトラウマの物語をよりよく理解し、それにこたえるために、出向いて行くよう求められているのです。マーティン・ルーサー・キング牧師はしばしば、「暴動は聞き届けられない人たちのことばです」といっていました。抗議や市民の騒乱が起こるのは、往々にして、抗議する人の声が聞き届けられていないからです。もし諸教会が虐げられた人々の声と一緒になれば、正義と解放を求める彼らの叫びはますます大きくなるでしょう。わたしたちは、一致のうちに互いに仕え合い、愛し合うことで、神と隣人に仕え、愛するのです。

孤児を守り、やもめを弁護せよ

ヘブライ語聖書において、やもめや孤児は、寄留者と並んで、社会のもっとも弱い立場の人々の代表として、特別な位置を占めています。イザヤの時代、経済的に繁栄していたユダでは、孤児ややもめは、保護や、土地所有の権利も奪われ、自活する能力を失い、絶望的な状況でした。この預言者は、共同体が繁栄を喜びながらも、もっとも貧しい人や、弱い人を守り育てることを怠ってはならないと呼びかけました。この社会でもっとも弱い立場にあるのはだれなのか考えるとき、この預言者の呼びかけは、わたしたちの時代にも響いてきます。

わたしたちの共同体の中で、だれの声が聞き届けられていないでしょうか。食卓にいないのはだれであり、それはなぜでしょう。キリスト教一致のための対話、共通の行動、祈りから抜け落ちているのは、どの教会、どの共同体でしょうか。この「祈祷週間」の間、ともに祈りながら、このような不在の声に対して、わたしたちは何をしようとしているでしょうか。

おわりに

イザヤは当時の神の民に、ともに善を行い、ともに正義を追い求め、ともに虐げられる人を救い、ともに孤児を守り、やもめを弁護することを学ぶよう求めました。この預言者の挑戦は、今日のわたしたちにも同じく当てはまります。この時代の悪と不正義に立ち向かうために、わたしたちはキリスト者として、どのように一致して生きていけばよいでしょうか。どのように対話し、互いの生活経験についての認識、理解、洞察を深めていくことができるでしょうか。これらの祈りと心の触れ合いは、個人としても集団としても、わたしたちを変える力をもっています。自らが変容し、抑圧の構造を解体し、人種差別の罪をいやそうとするとき、わたしたちのあらゆる出会いの中におられる神の現存に心を開きましょう。ともにわたしたちは、この社会における正義のための闘いに加わりましょう。わたしたちは皆、キリストに属しているのです。

礼 拝 式 文

(礼拝開始10分前までに、3教会のオンライン音声の大きさを確認。
オンライン礼拝参加者は、発言者以外はマイクをOFFに設定。)

(総合司会) これより、姉妹教会交流会礼拝をはじめます。

前 奏 (典礼聖歌322 愛と慈しみのあるところ)

礼拝への招き (司式者1)

姉妹、兄弟の皆さん、わたしたちは父と子と聖霊のみ名においてここに集っています。

洗礼の水によって、わたしたちはキリストのからだの一員となりましたが、わたしたちの罪は互いに苦悩と傷を与えてきました。

わたしたちは善を行うことができませんでした。

深刻な抑圧に直面しても正義を追い求めず、やもめや孤児を世話しなさいという神の命令(イザヤ1・17)を聞き入れませんでした。

ここに集い、自分たちが行ったこと、行わなかったことを省み、善を行い、正義を追い求めることを学びましょう。

分裂を乗り越え、共同体の分裂を助長してきた制度や構造を根こそぎ取り除くために、わたしたちは神の恵みを必要としています。

キリスト者として有している一致を強めるため、わたしたちは集まって祈ります。「わたしたちの心を開き、わたしたちのうちにある包摂する豊かさと同様性の宝を大胆に見いだせますように。信仰のうちにわたしたちは祈ります」。

讃歌1 (典礼聖歌400 ちいさなひとびとの)

罪の告白とゆるしへの招き (司式者2)

預言者イザヤのことばによって、わたしたちの罪を告白しましょう。

こうしてわたしの顔を仰ぎ見に来るが、だれがお前たちにこれらのものを求めたか。わたしの庭を踏み荒らす者よ。むなしい献げ物を再び持って来るな。香の煙はわたしの忌み嫌うもの。

(司式者3) 主よ、わたしたちがみ前を謙虚に歩むことなくあなたを礼拝することをおゆるしてください。

新月祭、安息日、祝祭など、災いを伴う集いにわたしは耐ええない。お前たちの新月祭や、定められた日の祭りを、わたしは憎んでやまない。それはわたしにとって、重荷でしかない。それを担うのに疲れ果てた。

(司式者3) 世界中で実感させられた植民地主義の悪に、教会が加担してきたことをおゆるしてください。

あなたがたが両手を広げても、わたしは目をそらし、あなたがたが祈りを多く献げても、聞くことはない。あなたがたの手は血にまみれている。

(司式者3) 被造界の多様性に満ちた調和を圧迫する、わたしたちの不正義と抑圧の罪をおゆるしてください。

洗って、清くせよ。悪い行いをわたしの目の前から取り除け。悪を行うことをやめ、善を行うことを学び、裁きをどこまでも実行して、搾取する者を懲らし、孤児の権利を守り、やもめの訴えを弁護せよ。

(司式者3) 生ける洗礼の水で清められたわたしたちを、新たにゆるし、互いに、そして被造物と和解させてください。

論じ合おうではないか、と主は言われる。たとえ、お前たちの罪が緋のようでも、雪のように白くすることができる。たとえ、紅のようであっても、羊の毛のようになることができる。

神がその恵みのうちに、皆さんを罪から解き放ち、それによって皆さんが正義を行い、いつくしみを大事にし、へりくだって神とともに歩むことができますように。

全能の神が、わたしたちの祈りを聞き入れ、わたしたちをあわれみ、わたしたちの罪をおゆるしくくださいますように。

会 衆 神に感謝。

祈り (司式者3)

すべてのものの神よ、わたしたちの心とからだは、あなたのみ前に進み出て、わたしたちの不正義と分裂の罪を告白するこの機会に感謝します。わたしたちはともに、被造界のすばらしい多様性の中で一つになった聖なる家族としてみ前に進み出ます。先住民族もいれば、奴隷にされた人の子孫もいて、奴隷にした人の子孫もいて、移住者もいて、難民もいて、しかしわたしたちは皆、キリストという一つのからだの部分なのです。洗礼の生ける水によって、緋のように赤いわたしたちの罪が洗い流され、いやされ、神の家族という愛すべき共同体の一員となったことを賛美します。造り主である神よ、感謝と賛美をささげます。

この旅で、わたしたちは心と目を開き、すべての人々の間で共有され受け継がれてきた聖なる知恵を理解し、成長するよう、この礼拝をともに祝います。わたしたちが互いに一致を受け入れられるよう助け、被造界のただ中にいる聖霊によって集められた一つの家族であることを思い起こさせてください。

会 衆 アーメン。

聖書朗読 イザヤ (1・12 - 18) (司式者4)

讃歌2 (アレルヤ唱)

説教 (高幡教会 ホルハ神父)

讃歌3 (典礼聖歌403 友よ聞こう)

執り成しの祈り

(司式者2)

信仰と確信のうちに、父と子と聖霊である神のみ前で祈ります。造り主である神よ、今日、わたしたちは、ある人々にとっては持続不可能で、ある人々にとっては過剰な生活をもたらした、行動の結果に囲まれて生活しています。すべての人の益のために、そして被造界を尊ぶために、神がわたしたちに与えてくださった資源を、いかに責任をもって使用すべきかを理解できるよう導いてください。被造界は、あなたに向かってうめき、叫んでいます。

わたしたちに教え、道を示してください。

いつくしみ深い神よ、わたしたちが互いに与えた傷と、あなたの民の間に生み出した分裂を修復できるよう助けてください。キリスト・イエスが弟子たちに聖霊を吹き込んで、新たな創造の共同体を生み出したように、あなたの恵みを送ってわたしたちの分裂をいやし、イエスが祈られた一致をわたしたちにお与えください。

わたしたちに教え、道を示してください。

道であり、真理であり、いのちであるキリスト。あなたは行われた善により、地上でのわざの中で正義を体現し、人を隔て、壁や、閉じ込める偏見を打ち砕かれました。わたしたちは大勢でも、あなたのうちに一つであることを理解できるよう、心と思いを開いてください。

わたしたちに教え、道を示してください。

(司式者3)

聖霊、あなたは地の面を新たに創造されます。山々の頂、空の雷、湖の波音がわたしたちに語りかけてきます。

わたしたちはつながっているからです。

星の瞬き、朝のさわやかさ、花の露がわたしたちに語りかけてきます。

わたしたちはつながっているからです。

貧しい人、抑圧された人、周縁に追いやられた人の声がわたしたちに語りかけてきます。

わたしたちはつながっているからです。

しかし、何よりもわたしたちの心はあなたに向かって高く上り、あなたに「アッバ、父よ」と叫び、祈ります。

閉式の祈り（司式者4）

永遠の神よ、聖なる共同体に集うこれらの人々の顔をご覧になり、お望みのとおりにお遣わしてください。

彼らが物語を語り、善を行い、その行動を通して被造界のために正義を追い求め続けるよう、聖霊によって励ましてください。

彼らが一つになり、あなたが世のいのちのために遣わされた独り子イエスを世が信じるよう、支えてください。

派遣（司式者1）

主が皆さんを祝福し、守られますように。

主がみ顔を上げて皆さんを照らし、恵みを与えられますように。

主がみ顔を皆さんに向け、平和が与えられますように。

会 衆 アーメン。

後 奏（平和の祈り）

（総合司会） これで、姉妹教会交流会礼拝を終わります。
引き続き3教会の紹介をします。（高幡・由木・永山）
本日はご参加ありがとうございました。

■1992年10月4日(日) <その発端>

これに先立つ3週間。ペルー人の青年達フェリーペ、フェルナンド、カル口の3人が由木教会を訪ねてくれました。当時も今も、由木教会にはスペイン語のわかる人がまったくおらず、コミュニケーション手段がなく、この日思いたって、この3人を車でカトリック高幡教会にお連れしたのです。入り口でわれわれを迎えてくださったのが田口さん。この若者たちは日野市の自動車会社で働いていましたが、危険作業を強いられて、仲間がひどいけがをしてそのまま帰国させられるケースをみて、別の建設会社に移籍したところでした。幸い高幡教会でスペイン語を話されるシスターの方がおられ、この方々はよき交わりを頂いたのです。この日コンスタン・ルイ神父に初めてお目にかかったのです。この3人のペルー人青年の来訪が、結果としてカトリック高幡教会との出会いをもたらしてくれたのです。

■1994年5月1日(日) 午後4時

この日カトリック高幡教会で、小枝牧師と親しい交わりのあったICU教会員-戸川さんの協力を頂いて、「一つになろう、キリストのうちに」と題して、中世の作曲家ヴィットリオ(スペイン名Thomas Luis De Victoria)のミサ曲をICU卒業生で構成される聖歌隊が歌い、コンスタン・ルイ神父が司式し、小枝功牧師が説教をした。キリエ、グロリア、クレド、サンクトゥス、ベネディクトゥス、アニュスデイ。コンサートではなく、ほんものの典礼で聞くミサ曲は感動に満ちた至福のときでした。この礼拝にはルイ神父のお誘いもあり、多摩ニュータウン教会の西田牧師も参加され、聖書朗読をされた。

■1997年1月8日(水) 午後二時過ぎ

カトリック高幡教会の田口さんともに、コンスタン・ルイ神父がフライパン、ブランデー、小麦粉持参で由木教会を訪ねてくださり、クレープを自ら作ってくださった。その後エキュメニカルな協力の方向について話し合いがなされました。

■1997年10月5日(日)

由木教会の主日礼拝でルイ神父をお迎えして、説教を担当していただく。
説教題「主はひとり、信仰はひとつ」

■1997年11月20日(木) am10時。

カトリック高幡教会からルイ神父と25人の教会員の方々がおいでになり、プロテスタントの礼拝と聖餐式を経験したいと望まれ、由木教会員15名を加えて、合同礼拝を持った。

■1998年1月25日(日) pm3時から

カトリック高幡教会で、一致集会。説教は李仁夏先生を講師に迎える。
名目は「1998年キリスト教一致礼拝」

■2000年1月23日(日) pm3時

カトリック高幡教会で姉妹教会交流会礼拝。先唱：森田百合子さん、
説教：晴佐久昌英神父、聖餐式：小枝功牧師担当。
この年から正式に日本基督教団永山教会が姉妹教会の一員に加わってくださった。

- 2001年2月25日(日) pm2時 カトリック高幡教会で姉妹教会交流会礼拝。
 テーマ<ひとつになろうキリストのうちに>
 司式：晴佐久昌英神父、説教：石川和夫牧師、聖餐式：小枝功牧師。
- 2002年2月24日(日) pm2時から 日本基督教団永山教会。
 司式：晴佐久昌英神父、聖餐式：石川和夫牧師、説教：小枝功牧師。
- 2003年2月23日(日) pm2時から ホーリネス由木教会。
 テーマ <宝を土の器に納めています。>
 司式：石川和夫牧師、説教：晴佐久昌英神父、聖餐式：小枝功牧師
- 2004年2月22日(日) pm2時から カトリック高幡教会
 テーマ <わたしの平和を与える。>
 主司式：小林祥二神父、説教：石川和夫牧師。聖餐式：小枝功牧師、鈴木玲子牧師
- 2005年2月27日(日) pm1時半から 日本基督教団永山教会
 テーマ <教会の土台であるキリスト>
 主司式：石川和夫牧師、司式1：小林祥二神父、司式2：鈴木玲子牧師、
 詩篇先唱：小枝黎子牧師、説教：小枝功牧師、聖餐式：石川和夫牧師、鈴木玲子牧師
- 2006年2月26日(日) pm1時半、ホーリネス由木教会
 テーマ<二人また三人がわたしの名によって集まる 곳には、わたしもその中にいる。>
 主司式：小枝功牧師：司式者1：小枝黎子牧師、司式者2：鈴木玲子牧師、
 説教：加藤英雄神父、聖餐式：石川和夫牧師、鈴木玲子牧師
- 2007年2月11日(日) pm1時半、カトリック高幡教会
 テーマ<耳の聞こえない人を聞こえるようにし、口の利けない人を話せるようにしてく
 ださる。>
 主司式：加藤英雄神父 共同司式：司式者1：石川和夫牧師、司式者2：小枝黎子牧師、
 司式者3：小林祥二神父、司式者4：森田健児助祭、説教：大塚忍牧師、
 聖餐式：小枝功牧師
- 2008年2月24日(日) pm2時、永山教会
 テーマ<絶えずいのりなさい>
 主司式：大塚忍牧師、司式者1：加藤英雄神父、司式者2：小林祥二神父、
 司式者3：小枝黎子牧師、説教：小枝功牧師、聖餐式：石川和夫牧師
- 2009年2月22日(日) pm1時半、由木教会
 テーマ<それらはあなたの手の中で一つとなる>
 主司式：小枝功牧師、共同司式：石川和夫牧師、福音朗読・祝福：加藤英雄神父、
 説教：大塚忍牧師
 聖餐式：小林祥二神父
- 2010年2月21日(日) pm1時30分、高幡教会
 テーマ<あなた方はこれらのことの証人となる>

主司式：加藤英雄神父、司式者 1：大塚忍牧師、司式者 2：石川和夫牧師、
司式者 3：小枝功牧師

司式者 4：小枝黎子牧師、説教：大塚忍牧師

■2011年2月20日(日)pm1時半、永山教会

司式者 1：大塚忍牧師、司式者 2：小林祥二神父、司式者 3：小枝黎子牧師、
司式者 4：小枝功牧師、

説教：石川和夫牧師、朗読者 1：河端秀朗（高幡教会）、朗読者 2：呉暁燕（由木教会）、
朗読者 3：藤川いずみ、奏楽：井前和代、交流会司会：金子和雄、

ギター伴奏：金子和雄（永山教会）、

■2012年2月19日(日)pm1時半、由木教会

テーマ<わたしたちは皆、主イエスキリストの勝利によってかえられます>

司式者 1：小枝功牧師、司式者 2：高木健次神父、司式者 3：大塚忍牧師、
司式者 4：石川和夫牧師

説教：高木健次神父

■2013年2月17日(日)pm1時30分、高幡教会

主司式：高木健次神父、司式者 1：大塚忍牧師、司式者 2：石川和夫牧師、
司式者 3：小枝功牧師

司式者 4：小枝黎子牧師、説教：大塚忍牧師、奏楽：岩本悦子、司会(先唱)高幡教会

■2014年6月15日(日)pm1時半、永山教会

テーマ<キリストは幾つにも分けられてしまったのですか>

司式者 1：西川幸作牧師、司式者 2：小枝黎子牧師、司式者 3：高木健次神父、
司式者 4：石川和夫牧師

説教：小枝功牧師、奏楽：井前和代、総合司会：金子和雄

■2015年2月15日(日)pm1時半、由木教会

テーマ<イエスは「水を飲ませてください」と言われた>

司式者 1：松井亜季、司式者 2：高木健次神父、司式者 3：西川幸作牧師、
司式者 4：小枝功牧師

説教：石川和夫牧師、奏楽：五十嵐直美、独唱：井出博子

総合司会：芳賀進

■2016年2月21日(日)pm1時半、高幡教会

テーマ<主の力あるわざを、広く伝えるために招かれて>

司式者 1：高木健次神父、司式者 2：松井亜季、司式者 3：小枝黎子牧師、
司式者 4：小枝功牧師

説教：西川幸作牧師、奏楽：岩本悦子、総合司会：宮崎浩司、交流会司会：武田史郎

■2017年2月19日(日)pm1時半、永山教会

テーマ<和解—キリストの愛がわたしたちを駆り立てています>>

司式者1：西川幸作牧師、司式者2：小枝黎子牧師、司式者3：辻茂神父、
司式者4：小枝功牧師

説教：辻茂神父、奏楽：井前和代、総合司会：金子和雄、交流会司会：金子和雄

■2018年2月18日(日)pm1時半、由木教会

テーマ<主よ、あなたの右の手は力によって輝く>

司式者1：小枝黎子牧師、司式者2：小枝功牧師、司式者3：ロールド・ザビエル神父、
司式者4：小手川到伝道師

説教：小手川到伝道師、奏楽：五十嵐直美、総合司会：芳賀進、
交流会司会：芳賀進

■2019年2月17日(日)pm1時半、高幡教会

テーマ<ただ正しいことのみ追求しなさい>

司式者1：ロールド・ザビエル神父、司式者2：小手川到伝道師、司式者3：小枝黎子牧師
司式者4：小枝功牧師、

説教：小枝功牧師、奏楽：、総合司会：---、
交流会司会：---

■2020年2月16日(日)pm2時、永山教会

テーマ<人々は大変親切にしてくれた>

司式者1：小手川到牧師、司式者2：小枝功牧師、司式者3：小枝黎子牧師、
司式者4：小手川到牧師

説教：ベロツティ・ジャンルーカ神父

奏楽：保坂幸枝、総合司会：金子和雄、交流会司会：金子和雄

■2021年2月14日(日)pm2時、ZOOMによる礼拝

ZOOMの主催教会 高幡教会

テーマ<私の愛にとどまりなさい>

司式者1：ベロツティ・ジャンルーカ神父、司式者2：小枝功牧師、
司式者3：小枝黎子牧師

説教：小手川到牧師

奏楽：高幡教会、総合司会：高幡教会

■2022年2月27日(日)pm2時、ZOOMによる礼拝

ZOOMの主催教会 高幡教会

テーマ<わたしたちは東方でそのかたの星を見たので、拝みに来たのです>

司式者1：ベロツティ・ジャンルーカ神父、司式者2：小手川到牧師
司式者3：小枝黎子牧師

説教：小枝功牧師

奏楽：高幡教会、総合司会：高幡教会



メ 毛

カトリック 高幡教会

〒191-0042 日野市程久保 4 - 7 - 1 4

Tel 042-592-2463

Fax 042-592-2464

宮下 良平 神父、ホルヘ 神父

URL ; <http://www.cctakahata.jp/>

文字検索は(カトリック高幡教会)で検索

E-Mail ; uketsuke@cctakahata.jp



日本ホーリネス教団由木教会

〒192-0362 八王子市松木 1 9 - 1 6

Tel 042-676-7122

Fax 042-678-2751

小枝 功 牧師、小枝 黎子 牧師

URL ; <http://minamiyato.sakura.ne.jp/church/>

文字検索は(由木キリスト教会)で検索

E-Mail ; yugi@mtj.biglobe.ne.jp

日本基督教団 永山教会

〒206-0014 多摩市乞田 1 2 2 5 - 1

Tel 042-374-4586

Fax 050-3488-8462

小手川 到 牧師

URL ; <https://www.facebook.com/nagayamach>

文字検索は(日本キリスト教団永山教会)で検索

E-Mail ; nagayamakirche@gmail.com